

昇

令和2年5月22日 校長室から

心に太陽を持って

心に太陽を持って 嵐が吹こうと 吹雪が来ようと
天には黒くも 地には争いが絶えなかりと いつも 心に太陽を持って
くちびるに歌を持って 軽くほがらかに
自分のつとめ 自分のくらしに よしや苦勞が絶えなかりと
いつも くちびるに歌を持って
苦しんでいる人 悩んでいる人には こう励ましてやろう
勇気を失うな くちびるに歌を持って 心に太陽を持って

この詩は、ドイツの詩人であるツェーザル・フライシュレンの作であり、児童文学者の山本有三さんが訳した有名なものです。

長く続いている休校の期間もようやく出口が見えつつあり、世間の様子からも少し光がさしかかかってきたと感じているのではないのでしょうか。しかし、学校生活が元に戻ったとしても、日々いろいろなことが皆さんの身に舞い込み、心の揺らぎも普通に出てくると思います。そんなときにも、自分で自分を立て直すことが必要です。苦しいときも、辛いときでも、希望を失うことなく踏ん張りたいものです。良いことも長くは続きませんが、悪いことも長くは続かないものです。そんなときに「心に太陽を持って」ば、何事も良くなるよ、とこの詩は伝えているのです。

また、「いつもくちびるに歌を持って」とありますが、先生方で校歌を歌っている動画を、学校のホームページにアップしています。私も参加していますが、本校の校歌も「心に太陽を持って」のメッセージに近い思いが込められています。これからも、皆さんと一緒に口ずさみ、励まし合う仲間、生徒集団であって欲しいと願ってやみません。